

一般質問

※3 中心市

総務省の定住自立圏構想における圏域の中心となる市。



活性化が望まれる中心市街地

●阿久津市政の評価

猪熊 篤史 議員

質問 市街地活性化の実感できる計画が示されなかったことが、旧渋川公民館の保存や渋川市渋川の住所における町名表示について、強い市民要望が寄せられた一番の原因ではないのか。

市長 市街地活性化には定住人口の増加が必要と考えています。旧渋川公民館など古いものを守り、

市民の要望を受け町名表示の調整をするなど市民と共同作業で新しいまちづくりを進めていきます。

質問 子持地区の新病院開院で地域医療の改善が期待されるが、市の負担増などにより渋川総合病院を廃院にせざるを得なくなった経営責任をどう考えるのか。

市長 新病院の整備により、市民が安心して救急をはじめとする高度な医療を受けられ、将来的には市の財政負担も軽減できると考えます。このことが私の経営責任を果たすことであると考えています。

質問 学校給食調理場の整備、スクールバス運行、小中学校の再編統合は、生徒・児童数の推移を基に総合的に計画できなかったのか。

市長 スクールバスの運行は、通学の安全安心の確保という面で優先して取り組みました。スクールバスのスタートにより、再編統合も取り組めるようになりました。

質問 定住自立圏形成のために、渋川市が中心市になってはどうか。

企画部長 中心市の条件を満たしており、中心市宣言を行い、周辺市町村と協定を結び定住自立圏を形成した場合、4000万円程度の特別交付税措置を受けられます。

●食物アレルギーの学校対応

●障害者の就労と自立を支援する「障害者優先調達推進法」

伊花 明美 議員

質問 ①食物アレルギー②アナフィラキシー既往③エピペン携行の児童生徒数と食物アレルギーの対応は。「そば・落花生」は除去できないか。エピペン使用講習の考えは。

学校教育部長 食物アレルギー及びアナフィラキシー既往の数は、今後、確認予定です。エピペン携行数は0です。管理指導表で保護者、学校が対応を確認しています。エネルギー摂取基準を満たすには、そば・落花生除去は難しい状態です。食物アレルギー対応講習会等を検討しています。

質問 「アレルギーガイドライン」に基づく対応に、学校調理場（栄養士）・家庭の情報共有がされていないことは大問題。ガイドラインの徹底とマニュアルの策定、積極的な情報公開を求めるが、いかがか。

教育長 今後、管理指導表に基づ

迅速な対応を！



※2 エピベン

アナフィラキシーを症状を緩和するための自己注射器。

いて保護者、学校、調理場がアレルギー対応について情報共有ができるよう指導したいと考えています。また、県教委及び他市町村教委から情報収集し、マニュアルの作成も含め、その対応について検討したいと考えています。

質問 障害者優先調達推進法が4月施行。調達方針策定に向け、関係部局・団体と連携した取り組みを。公契約における措置の検討は。

保健福祉部長 障害者就労施設等で就労する障害者等の自立を進めるため、公共団体等がその物品等を積極的に購入することを定めたものです。国の基本方針等に基づき、関係部局と連携を図ります。

※1 アナフィラキシー

複数のアレルギー症状が短時間で生じる状態。

一般質問



南雲小学校

●小中学校再編計画等 検討委員会の答申と 対処

●国民健康保険税条例の 資産割の廃止を

狩野 保明 議員

質問 検討委員会の答申では、再編統合の具体的方策として、平成28年度までに上白井小と中郷小、南雲小と津久田小、刀川小と三原田小、赤城南中は赤城北中を伊香保中と小野上中は統合校を別途協議して、平成28年度以降に伊香保小、小野上小を旧市町村域を超えて再編統合とされています。

この答申書を手渡された教育長の率直な感想は。

教育長 真摯に取り組んでいかなければならないという使命感でいっぱいです。「統合して良かった」という声が聞こえる学校統合をしなければならぬと考えます。

質問 この答申を受けて、教育委員会は小中学校再編計画をいつ策定し、市議会や地元を示すのか。

学校教育部長 慎重に進めていくことが必要で、再編計画は、合意形成が図られた後に策定します。

質問 再編統合において、新規校舎の建設はあるのか。

学校教育部長 基本的には、新規校舎の建設は行わず、既存の学校施設の活用を図ります。

質問 国民健康保険税の資産割を全面廃止している前橋市や太田市のように廃止する考えは。

市民部長 資産割の廃止については、今後の検討課題とさせていただきます。

質問 群馬県国民健康保険広域化では、3方式（所得割、均等割、平等割）への移行を目指すところがあるが、いつ広域化となるのか。

市民部長 平成30年を予定しておりますが、政権交代等により、目標年度は不透明な状況です。

●市長の 政治姿勢

高橋 敬 議員

質問 市長は4年前の選挙で「元気な風」を起こそうをスローガンに掲げ、市民に4つのメッセージを発信し、所信を示された。3年半の市政運営の中でどう取り組まれたか。また任期最後の予算編成に当たり予算に込めた思いと、渋川市の未来をどのように心に描いているか。

市長 就任以来、市民主体の政治を目指し、挑戦・チャレンジを基本として誠心誠意取り組んできました。予算では、補正予算と合わせた15カ月予算を編成し、持続型の行政を目指して渋川市を活性化していきます。また、稲盛和夫氏のアメーバ経営という手法を市政に取り入れていきます。

公共施設白書の作成は
質問 本市の公共施設数と面積、老朽化の現状は。

企画部長 施設数837棟、面積約37万4000平方メートル、昭和56



老朽化した本庁の屋上

年以前に建築された棟数が約58%です。

質問 市有施設の多くが老朽化している現状から白書の作成が求められている。作成までの日程は。

企画部長 現況調査などに時間がかかることが予想されますが、早期に示したいと考えています。

ダウンサイジング社会
質問 人口減少時代に突入し経済や地域社会が縮小する中、ダウンサイジングという視点からどう行政運営に取り組むのか。

企画部長 組織機構の見直しやスクラップアンドビルドに取り組む、経費削減を進めています。引き続き、コストの削減を進め、効率的な市政運営に取り組んでいきます。

※4 ダウンサイジング
組織等を小型化し、効率化すること。

※5 スクラップアンドビルド
予算や組織の新設を行う場合、既存の予算や組織を廃止すること。